

持続可能なグリーンインフラと多主体連携



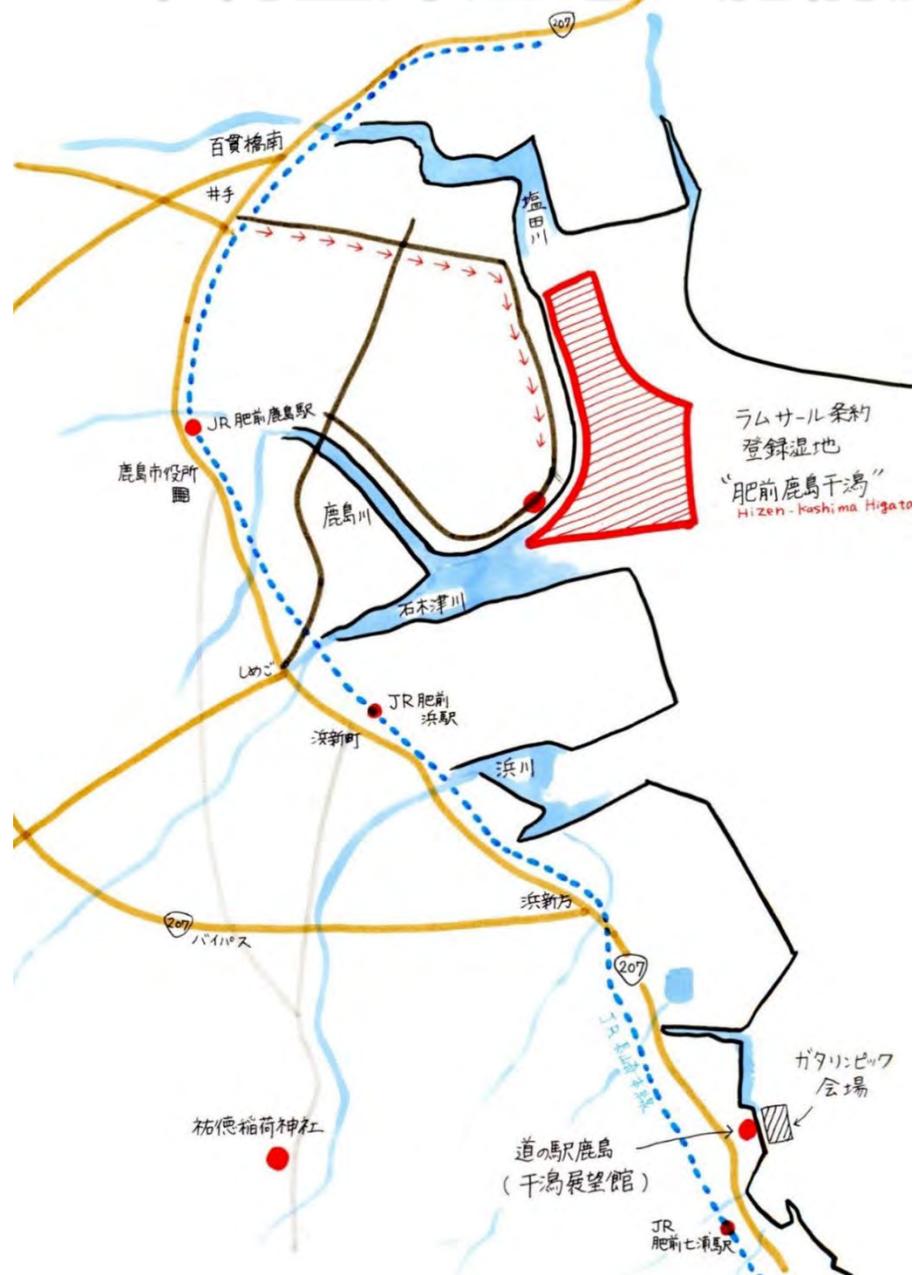
第3回グッドプラクティス塾
佐賀県鹿島市・鹿島市ラムサール条約推進協議会

佐賀県鹿島市



佐賀県鹿島市は、佐賀県の西南部に位置し、東には有明海が広がり、西は多良岳山系に囲まれ、森里川海干潟が一带となった自然環境に恵まれた市。人口約3万人。

ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」とガタリンピック



これまでの経緯～負の遺産とまで言われた干潟をラムサール条約登録湿地へ～

- 平成14年3月に「鹿島新籠」の名称で、「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」のもとでの「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク（シギ・チドリ類）」に参加
- 平成27年5月29日に「肥前鹿島干潟」としてラムサール条約湿地に登録される。



【ラムサール条約推進協議会の発足】～条約登録の契機を活かして～

平成27年「肥前鹿島干潟」のラムサール条約湿地への登録を受けて、有明海の人の営みと干潟生物の生態系との調和や干潟を支える鹿島市全体の自然との関係性を見つめなおし、将来の地域や子供たちに受け継いでいくためのあり方を考えながら、自然環境の保全・啓発・利活用を図ることを目的として発足した。

【構成団体】～地元が主体。支える様々な社会各層～

ラムサール条約推進協議会は平成28年5月26日に発足。ラムサール登録地後背地で50年農業を営む宮崎憲治氏を会長として、区長会、地区振興会、商工会議所、観光協会など産業団体、環境団体、佐賀大学の約20名で構成されている。

【活動を支える「肥前鹿島干潟」SDGs推進パートナー】約90団体

経過

① H28.5～市内の団体を中心に設立

- 平成28年～環境省事業「地域循環共生圏実証地域」に選ばれる。
(令和3年度事業化支援団体)
- 令和元年 佐賀県「ストップ温暖化」県民運動功労
- 令和3年7月 佐賀県森川海人っ感謝状贈呈
- 令和3年11月 国土交通省「手づくり郷土賞」受賞
- 令和4年12月 環境省グッドライフアワード「環境まちづくり賞」受賞
- 令和5年2月 国土交通省 グリーンインフラ大賞受賞
- 令和5年2月 内閣府「地方創生SDGs金融表彰」

② 有明海の環境保全を通じて、SDGs目標達成を目指す

- 令和3年4月 金融機関5行との連携協定締結
- 令和3年9月 「佐賀新聞社」との連携協定
- 令和3年3月～肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー制度設立（現在90団体）

肥前鹿島干潟 SDGs

推進パートナー制度



有明海の環境保全を通じてSDGsの推進に取り組む企業、団体等を募集しています

要件

- 肥前鹿島干潟を中心とした有明海の環境保全活動につながる取り組みをしていること
- 地域課題の解決に向けた取組などSDGsのさらなる推進に取り組む意欲があること
- 目指しているSDGsのゴールが明確であること

登録すると

- 「肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー登録証」を交付します
- 鹿島市ホームページや市報などで取組内容を紹介します
- SDGsの推進に関する各種情報を提供します

鹿島市役所 ラムサール条約推進室

お問い合わせ / ☎ 0954-63-3416 ✉ ramsar@city.saga-kashima.lg.jp



「肥前鹿島干潟」と渡り鳥



ツクシガモ

2021年度最大飛来数 約1,500羽



クロツラヘラサギ

2021年度最大飛来数 約50羽



有明海の生き物 ① 有明海特産種

・日本で有明海だけにしかない生き物

- ・ムツゴロウ・ワラスボ・エツ・ハラグクレチゴガニ・オオシャミセンガイなど現在知られているだけで23種。
- ・このうちアリアケヒメシラウオ、ウミマイマイなどの6種は世界でも有明海のみで確認されている種。



有明海の生き物 ② 有明海準特産種

- 他のところにもいるけど、有明海にはたくさんいる生き物
- ズグロカモメ、ツクシガモ、メナダ、クロヘナタリ、シチメンソウなど40種が有明海準特産種。



有明海を取り巻く現状と課題

① 地域の現状

- ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」の認知度の低さ
- ラムサール登録までのスピード登録の弊害

⇒行政主導

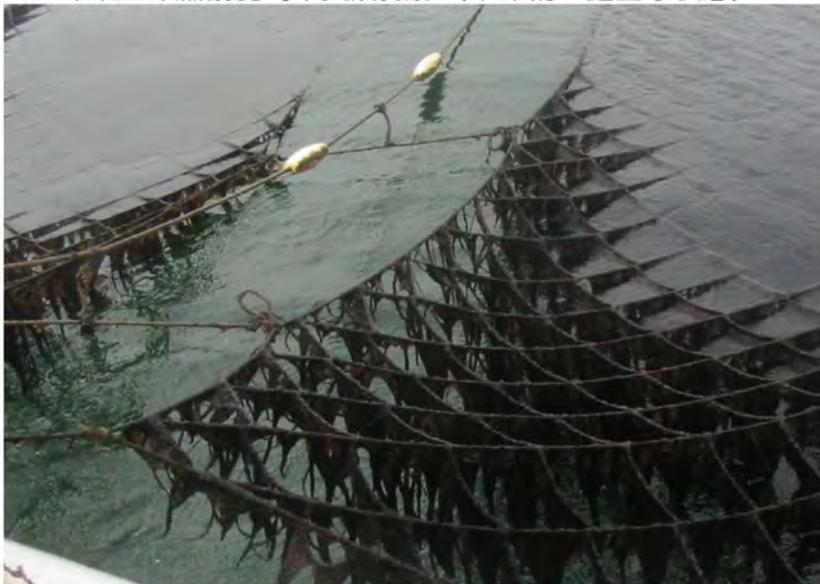
⇒地元の負担増による不平不満大

② 有明海の現状

- ◆災害、赤潮、貧酸素水塊が頻繁に発生し、環境異変が起きる
- ◆異変により、二枚貝をはじめとする干潟の生き物の減少。1990年代初めにアゲマキガイは**一度絶滅**
- ◆現在の漁業は、魚介類の漁獲量減少により、**海苔養殖が主流**となる。
⇒**2022年例年になく不作（例年の1/3以下）**
- ◆**広葉樹林の減少、河川の護岸工事により海への栄養分が減少**
- ◆漁獲量の激減1960年代 漁獲量14万トン⇒2000年代 漁獲量2～3万トン
- ◆**一番の問題 市民の関心の低さ 特別なことがない限り干潟に入らない**

色落ち海苔の写真

令和2年漁協鹿島市支所撮影（冷凍網の健全な状態）



令和5年1月1日漁協鹿島市支所撮影（冷凍網色落ち状況）



雨が降ると復活
するも・・・

養殖海苔 カモ食害被害状況（漁協鹿島市支所ドローン撮影）



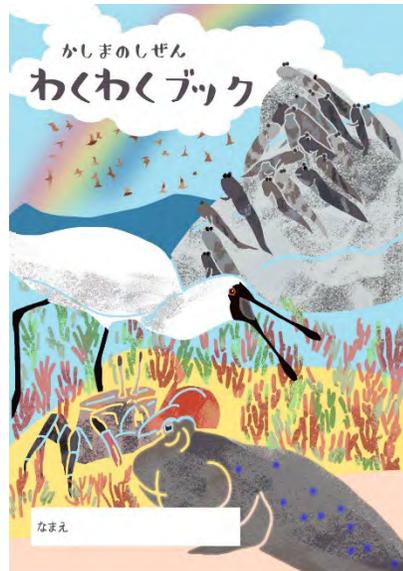
ラムサール条約の3つの目的



保全・再生



ワイズユース
(賢明な利用)



交流・学習



環境教育プログラム～森里川海干潟をつなぐ～

①水生生物調査



② 干潟の生き物調査（干潟体験）



③干潟や貝の浄化作用実験



④ 野鳥観察



広報・啓発「らむさーるだより」月1発行

Ramsar Letter for Children

2023年

らむさーるだより1号



潟を踏もうぜプロジェクト1

事前準備 2021/9/5 35名参加

- 青年会議所と共催



1週間後

- 大潮がきても、台風がきても足形が消えない



潟を踏もうぜプロジェクト2

本番 2021/9/18 75名参加



成果

- 約20年ぶりに大人数で「肥前鹿島干潟」へ入った。
- 事前準備の時よりも干潟が柔らかくなっていた。
- 事前準備では、硫化水素（腐った卵の臭い）の臭いがひどかったが、2回目はあまりしなかった
- 泥質調査については、佐賀大学へ依頼

グリーンインフラと連携体制の構築

鹿島市の課題

- 毎年の豪雨
- 土砂災害や浸水
- 流木の被害
- 有明海干潟に堆積する多くの流木やゴミ



- 市民の安全な暮らしへの影響
- 干潟などの貴重な生態系への影響

県内6市町 大雨特別警報



嬉野、白石で避難指示
祐徳稲荷近くで越水

県内6市町で大雨特別警報が発令された。嬉野市、白石市、祐徳稲荷町、大分市、津久井市、津久井町。大雨による土砂災害や浸水の恐れがある。避難指示が発令されたのは、嬉野市と白石市。祐徳稲荷町では、稲荷神社付近で越水が発生している。大分市、津久井市、津久井町では、土砂災害や浸水の恐れがある。県民は、大雨による災害に備え、避難指示が発令された場合は、速やかに避難する必要がある。また、土砂災害や浸水の恐れがある場合は、土砂災害警戒区域や浸水想定区域を避ける必要がある。大雨による災害に備え、県民は、大雨特別警報が発令された場合は、最新の情報を確認し、適切な対応を講ずることが重要である。



目的

●民間事業を支援するプラットフォームを構築

- ▶ 市民・地域企業・金融機関等による地域一体の取組を実現
環境推進事業の創出都市を目指す！

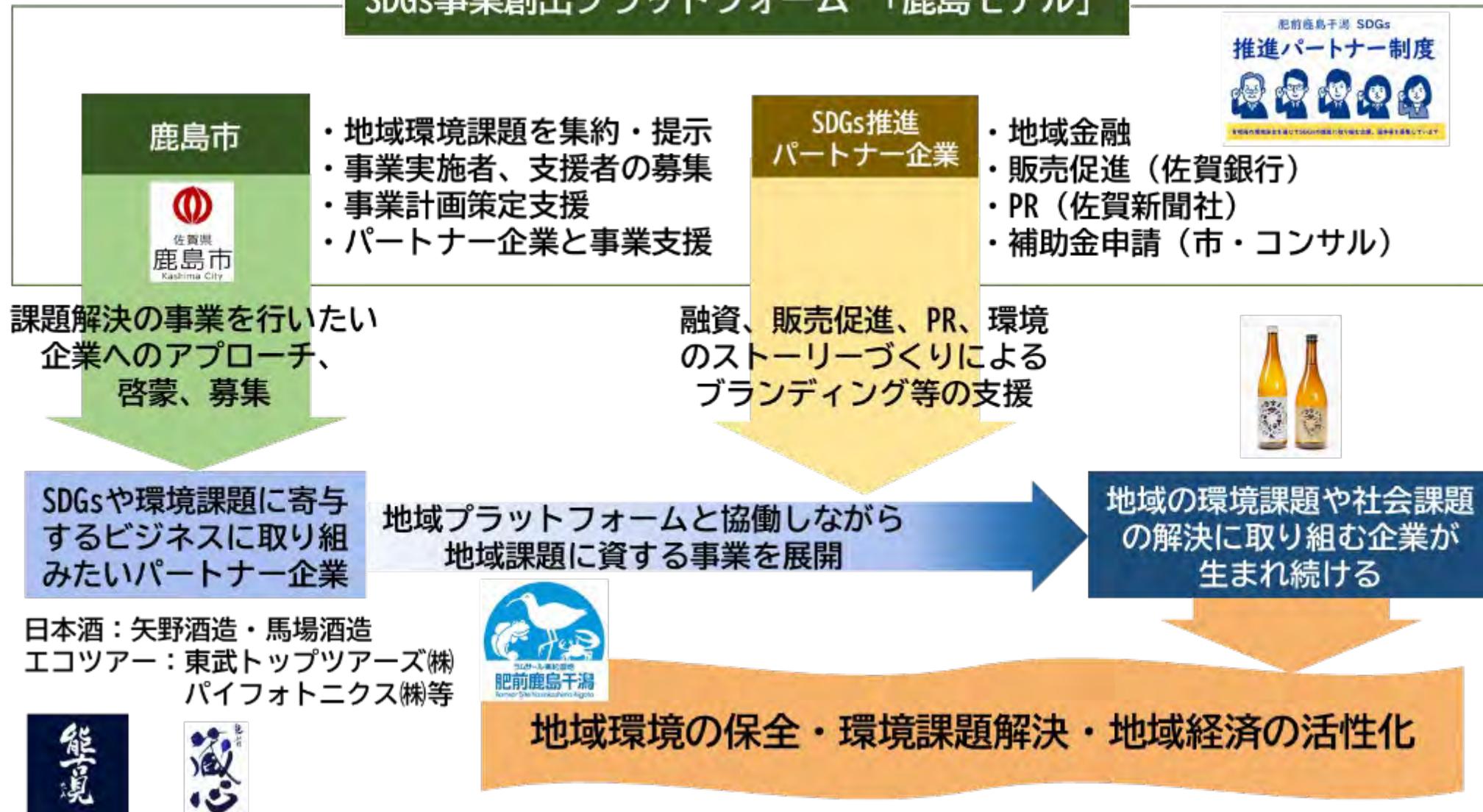
●グリーンインフラを活用した防災減災、森里川海干潟での取組推進

- ▶ 流域での一体的な生態系の保全
鹿島の環境と文化を守る暮らしの実現



企業のSDGsの取組を支援 「SDGs事業創出プラットフォーム」

SDGs事業創出プラットフォーム 「鹿島モデル」



「3年後の鹿島の環境を守る酒“ごえん”」

地域の自然資源活用＋経済活性化＋防災減災を目指すグリーンインフラ事業

土砂災害や水害の軽減、耕作放棄地の利活用のため、地元2酒蔵と共同で棚田米を活用した日本酒を製造。SDGsパートナー企業の支援により、販売促進等を実施。



地域広報機関との連携による市民・地元企業の巻き込み

豊かな海へ つながる鹿島 vol.1 地域循環共生圏

鹿島と中津川町の連携する「鹿島・アムサール」が自然資源の魅力を発信します。 鹿島町 × 中津川町

その一歩が、干潟を守る

青空が広がる肥前鹿島干潟に、子どもたちの元気な声が響いた。
9月18日に開かれた干潟体験イベント「潟を踏もうぜプロジェクト」親子連れなど約70人が参加し、潮スキーなどの干潟遊びを堪能した。
イベントには「あなたの一歩みが干潟を守る」というサブタイトルが有った。泥を踏みながら海水が流れ込んで潮干草が枯れ、干潟は生き物が育ちやすい環境になる。だが肥前鹿島干潟には泥を落とすためのシャワー設備がなく、イベントはこれまで実施しなかった。
干潟体験干潟で一歩一歩ができてきた。その状況を考えたのは、地元青年会議所からの提案だった。 ⇒5530212イベント



豊かな海へ つながる鹿島 vol.2 地域循環共生圏

鹿島と中津川町の連携する「鹿島・アムサール」が自然資源の魅力を発信します。 鹿島町 × 中津川町

光が導く、調和の海

秋葉ソリの採み取りを自然に誘った11月25日、鹿島市町の海岸近くに立てられたポールに、反響のない調子が取り付けられた。
スイッチを入れると、ドット模様、ライン状の光がソリ網を照らす。ソリを家へ帰る力を弱から導くためのLED燈光路で、鹿島市町の有明海で産出するカサゴの食料として新たに導入された。観光資源としてもエコツアーも検討され、12月には海岸にLEDのイルミネーションを施すイベントも計画されている。
録音音が収録している「環境と歴史の資料」を体験する遊り場も、光がもたらした。 ⇒5530212イベント



豊かな海へ つながる鹿島 vol.3 地域循環共生圏

鹿島と中津川町の連携する「鹿島・アムサール」が自然資源の魅力を発信します。 鹿島町 × 中津川町

自然の多面性 地酒で体現

地域循環共生圏の実現に向けた活動は、ラムサール条約に登録されている「肥前鹿島干潟」の保全にとどまらず、保水や淡水調製といった多面的な機能を備った海田へのアプローチも大きなテーマだ。1月から、海田米を使った日本酒の仕込みが始まった。
海田を守ることは有明海の環境保全にもつながるが、農家の高齢化などで耕作放棄地が増える中で、若い手をどう増やすのが、その答えが、環境を守ることで経済も元気にすることだった。地元の海田米を原料にした日本酒で付加価値を高め、農家の収入も増やしていく。このプロジェクトに賛同したのが、精米の達人・馬場酒造場と安野酒造だ。 ⇒5530212イベント



今後の展望

●防災減災に資するグリーンインフラの維持・拡充

- ▶
 - ・米を使ったバイオプラスチックを製造する企業と連携
 - ・棚田周辺の鹿島らしい原風景体験やワーケーションなどの企画
 - ・災害リスクが高い箇所への効果的なグリーンインフラの活用検討

●SDGs事業やプラットフォームの発展

- ▶
 - ・専門家との連携強化
 - 地域金融機関との連携（ESG地域金融の展開など）
 - 環境評価の専門家とともに環境保全に寄与する事業支援を構築



